

指導運営体制（H3 1ー）

○プログラム幹事会

- ・ 重要な案件が出てきた際に主にメールで審議を行う。
ただし、参集することは妨げない。
- ・ 会議の開催・招集はプログラム責任者またはプログラムコーディネーターが行う。

○企画運営委員会

- ・ 年 4 回開催（以下は予定）
 - 6 月・・・・・・・・プログラムの進捗状況の報告、その他
 - 10 月・・・・・・・・プログラムの進捗状況の報告、その他
 - 12 月・・・・・・・・Pre-QE、修了予定者の状況、その他
 - 2 月 or 3 月・・・・修了者判定、R-QE、選抜関係、年度のまとめ、新年度の方針の確認（行事等）、その他

○プログラム責任者は役職指定（情報科学研究科長）する。

基本方針（決定事項）

- 1) リーディングプログラムを全学の国際共創大学院学位プログラムとして位置づけ定着させる。
- 2) 情報科学研究科に正規科目として定着させる。
- 3) 高度副プログラムとして全学に普及させる。

具体実施案

- 1) 平成 31 年後以降のカリキュラムなど

(ア) 教員

プログラム責任者（尾上情報科学研究科長）、コーディネータ・教務委員長（清水（BI））、教務副委員長（原先生（MM））、産学連携委員長（若宮先生（BI））

幹事 6 名（清水、原、若宮、橋本先生（IS）、土屋先生（IS）、伊野先生（CS））

企業連携・審査関係委員（井上先生（CS）、尾上先生（IS）、藤原先生（MM）、村田先生（NW）、谷田先生（IPS）、増澤（CS）、平岡（生）、深川（生）、石黒（基）、細田耕（基礎））

メンター（専攻 1 名：准教授か助教 6 名）

IPS 谷田研：小倉先生、CS 増澤研：首藤先生、IS 尾上研：谷口先生、NW 村田研：荒川先生、MM 藤原研：安永先生、BI 松田史研：岡橋先生

(イ) 特任教員 3 名：教務（細田先生）、産学（マハズーン先生）、海外連携（**）

(ウ) 職員 6 名：徳野、谷川、井汲、嘉村、森田（生命）、松田（基礎工）

(エ) 履修生定員 20 名＋副プログラム 10 名＋情報履修 10 名

(オ) 平成 31 年度については全カリキュラム、科目を継続する。将来、運営体制が縮小すると判断した場合の運営については研究科の科目との読み替えなどを行って負担を減らし定着させていく。

(カ) 選抜 原 特任 3 名、各研究科選抜委員（企業連携・審査関係委員より研究科一名以上参加）

(キ) 科目担当者（シラバスなどに明記）

1 年次

- ① 創出論 → 原、橋本（連絡）、細田、外部講師→イノベ創出論（情報科目）
- ② 融合研究→ 企業インタビュー（イノベーション入門） 若宮、土屋（連絡）、細田、マハズーン
- ③ 基礎論 I、II→清水、細田_生命、マハ_ロボ、**_情報、I（小倉、首藤、谷口）、II（荒川、安永、岡橋）
- ④ マシンラーニング→ 情報科学研究科の適当な科目 開講せず
- ⑤ 合宿（熟議セミナー）→清水、原、若宮、特任 3 人、メンター
- ⑥ 研究室ローテーション→原、伊野（連絡）、細田

- ⑦ Pre-QE→ 原、特任、メンター

(ク) 2年次

- ① 融合領域研究→ アウトリーチ、清水、細田、土屋（連絡）

(ケ) 3年次

- ① 実践演習→ 企業担当者、若宮、土屋（連絡）、マハズーン
② 融合領域 PJ 研究→ 清水、細田 RQE で審査
③ 国内インターンシップ、海外インターンシップ、起業→若宮、土屋（連絡）、マハズーン、**
④ 融合領域 PJ PI 研究→ 清水、特任 3 人、メンター、書面審査
⑤ R-QE → 清水、特任 3 人、メンター

(コ) 5年次

- ① 最終審査 →清水、原、若宮、特任 3 人、メンター、各研究科（企業連携・審査関係委員より研究科一名以上参加）
② 修了要件 →維持
1. 英語の学位論文
2. 英語で主筆の掲載論文
3. 融合研究成果（論文、国際会議発表）
4. 英語のプレゼン（最終審査）
5. TOEIC730 点
6. GPI
7. 40 単位

(サ) その他（学年共通）

- ① 学生アドバイザー→ 最終審査自由参加に変更。産学連絡協議会で面談。
② 産学連絡協議会→維持
③ 海外短期渡航→お金があれば維持
④ GPI→維持
⑤ 英語トレーニング→大学本部に移行

(シ) 高度副プログラムとして全学展開、情報科学研究科正規科目定着

長期的視野

(ス) HW のコンソーシアムについて検討する。産学連携委員長検討項目

- ① 教員、履修生、修了生、企業
- ② アドバイザ：小粥先生、国際アドバイザリ委員
- ③ 大阪大学の会、3 研究科の会？
- ④ 企業からの共同研究、資金提供受け皿、学生の紹介窓口などを行う
- ⑤ HW の学理追及、社会に還元、人的 NW 形成を目的とする
- ⑥ 年に一度はイベントを開催（研究発表、マッチング、インターン説明など）合宿
- ⑦ IT を活用して情報交換の仕組み

(セ) コア履修生以外の参画 教務副委員長検討項目

- ① 科目ごとに履修を可とする学生を受け入れる。毎年 20 人程度選抜方法
- ② 奨学金、必須単位、アドバイザリ制度、研究費 PI 権利、学生活動幹事権利、HW 学位はない。
- ③ 融合研究への参加を認める（単位は出す）。年度初めに参加の意思を確認する。
- ④ 年に一度のイベントには参加必須（（合宿）⑥）
- ⑤ D に移る段階でコアと非コアを移動できる。選抜
- ⑥ コア履修生以外の受け入れのひとつとして、平成 31 年度大学の高度副プログラムを利用を検討する。（高度副プログラムは研究科から申請（情報科学研究科より））（細田一）8 単位、修了証あり

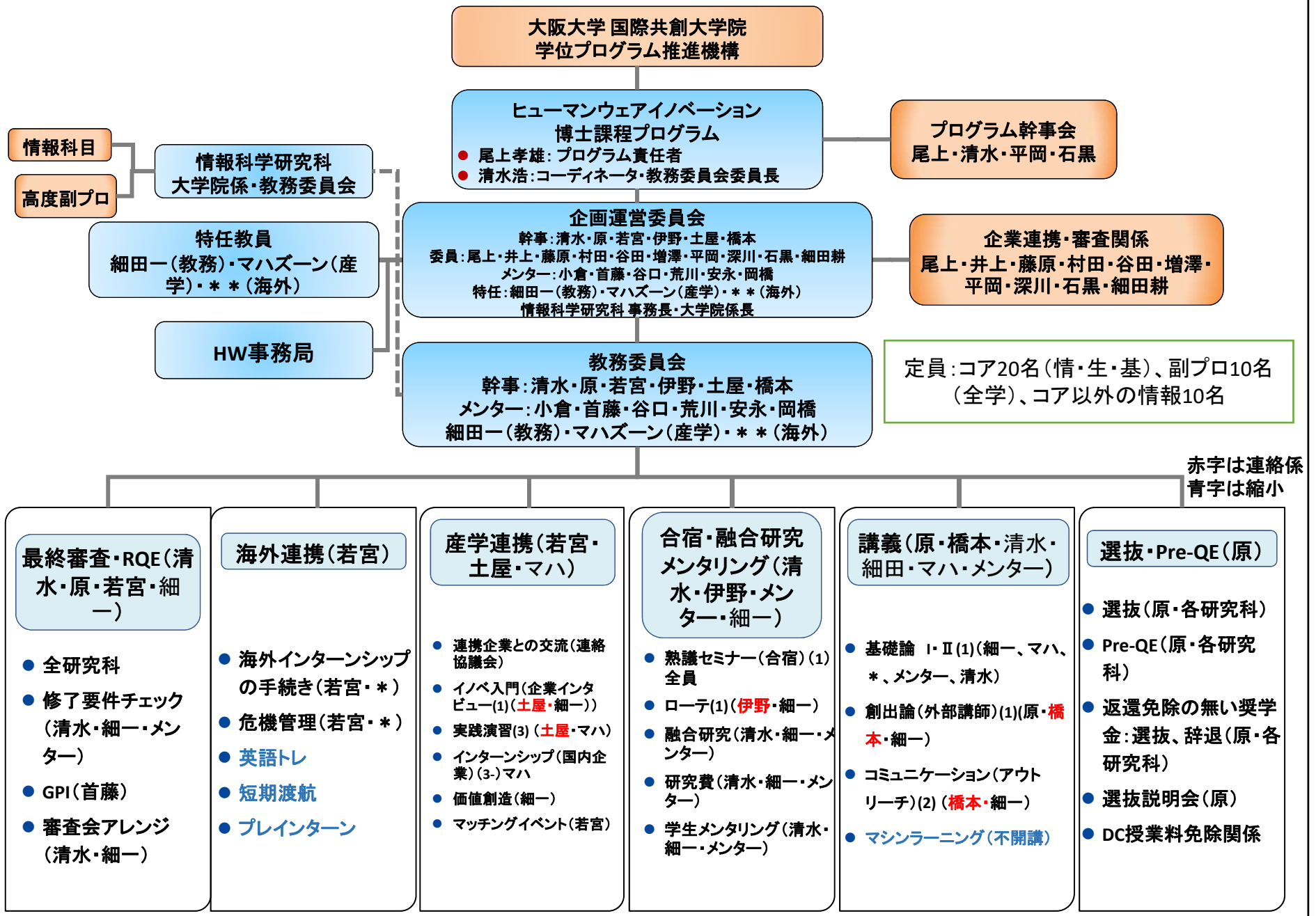
(ソ) 研究科への定着について 教務委員長

- ① 情報科学研究科の正規カリキュラムの中に HWIP を定着）

(タ) 広報について 産学連携委員長

- ① 上記の基本方針にのっとり来年度の新入生に対して選抜応募のための広報を実施する。
 1. 説明会
 2. 履修要項
- ② 企業とのマッチングイベントを 12 月開催の方向で検討いただく
 1. 履修生、修了生の良さを担当企業、担当以外の企業にも見せるマッチングイベント開催を計画
 2. 履修生の研究、融合研究を紹介その他
- ① 企業からの共同研究の受け入れ検討
 1. 担当教員の責任の明確化が必要
 2. 研究科で受け入れる（国際共創で受け入れるが会計は情報）
- ② クラウドファンディングについて
 1. 委任経理金として受け入れ可能
 2. 研究科で受け入れる（国際共創で受け入れるが会計は情報）

ヒューマンウェアイノベーションの指導運営体制(H31-)



現状：情報科学研究科での取り扱い

専攻基礎	研究 I a	M1	2
	研究 I b	M1	2
	演習 I	M1	2

専攻基礎	研究 II a	M2	2
	研究 II b	M2	2

※情報数理のみ
研究 Ia+Ib(4)の代わりに研究I(3)
研究 IIa+IIb(4)の代わりに研究II(3)

専攻基礎	インターン	D	2
	海外インタ	D	4

国際共創提供課目(変わりなし)

HW領域コア科目

学年 単位

専攻基礎	HWイノベーション創出論	M1	2	→専攻境界
専攻基礎	HWセミナー	M1	4	
	HW領域基礎研究	M1	6	
	HW融合領域研究	M2	4	
	HW融合領域プロジェクト研究	D1	4	→専攻境界
	HW PI融合領域プロジェクト研究	D2	4	→専攻境界
	イノベーション実践演習	D1	4	→専攻境界

HWインターンシップ

	インターンシップ(長期)	D	4	→専攻境界
	インターンシップ(短期)	D	2	→専攻境界
	海外インターンシップ(長期)	D	4	→専攻境界
	海外インターンシップ(短期)	D	2	→専攻境界
	HW価値創造実践	D	2	→専攻境界

HW領域基礎科目

専攻境界	HW基礎論 I	M1	2	→専攻境界
専攻境界	HW基礎論 II	M1	2	→専攻境界
専攻境界	Practical Machine Learning	M1	2	
専攻境界	基礎工学研究科提供科目	M		
	情報科学研究科提供科目	M		
専攻境界	生命機能研究科提供科目	M		

講義科目
(専攻基礎・専攻境界)

今後：情報科学研究科での提供課目

HW熟議セミナー	MD	2
HWラボローテーション	MD	2

HWイノベーション入門	MD	2
研究 I a	M1	2
研究 I b	M1	2
演習 I	M1	2

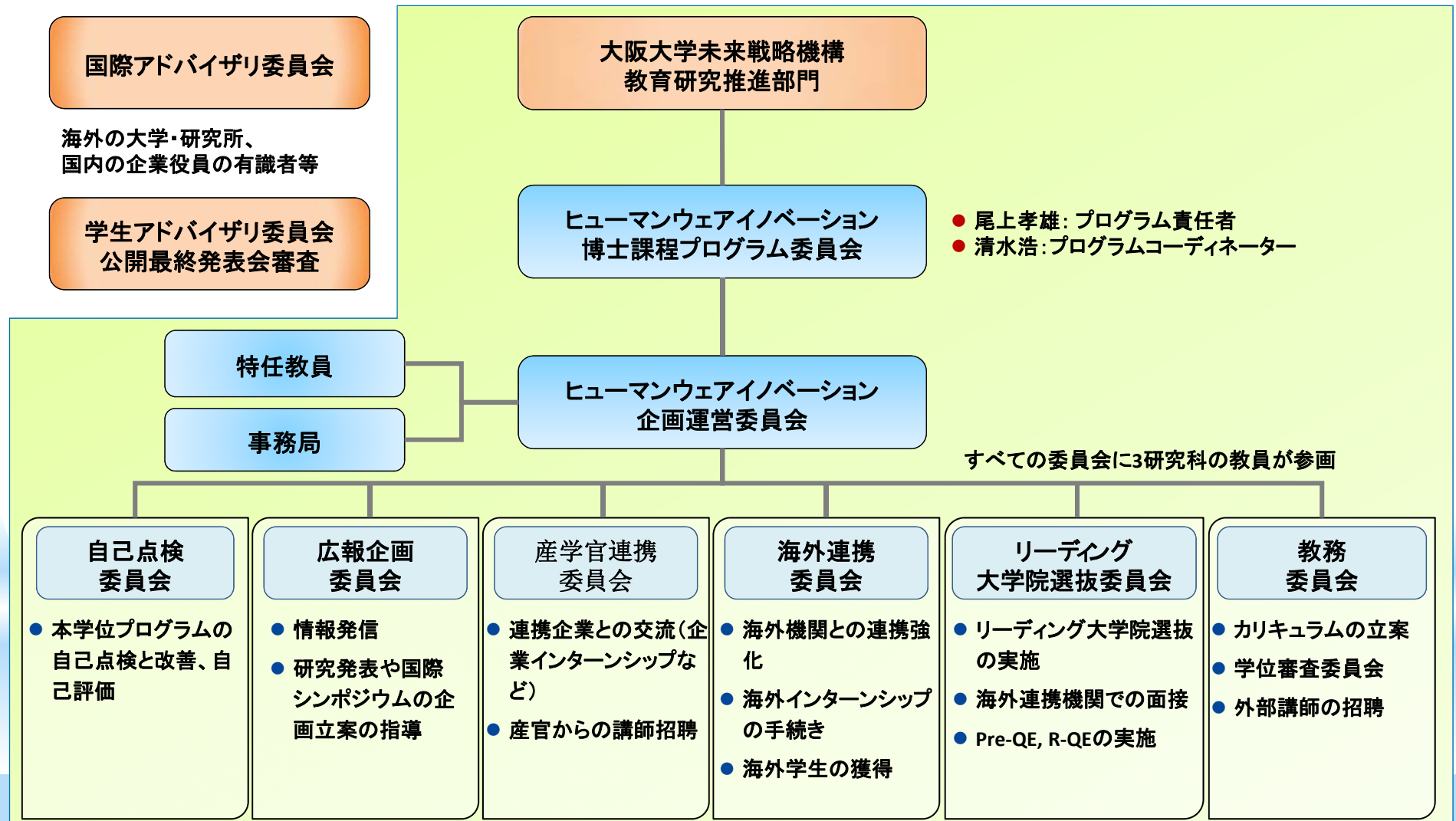
HWコミュニケーション	MD	2
研究 II a	M2	2
研究 II b	M2	2

※情報数理のみ
研究 Ia+Ib(4)の代わりに研究I(3)
研究 IIa+IIb(4)の代わりに研究II(3)

今後の提供課目について

- ・全て専攻境界
(専攻基礎部分が研究科に戻ったため)
- ・黒文字は副プロ提供
- ・黒文字はIST生は誰でも受講可
- ・緑文字はHW生のみが受講可

ヒューマンウェアイノベーションの指導運営体制(参考:これまで)



プログラム支援終了後の継続と発展(最終ヒアリング資料)

OUビジョン2021

指定国立大学

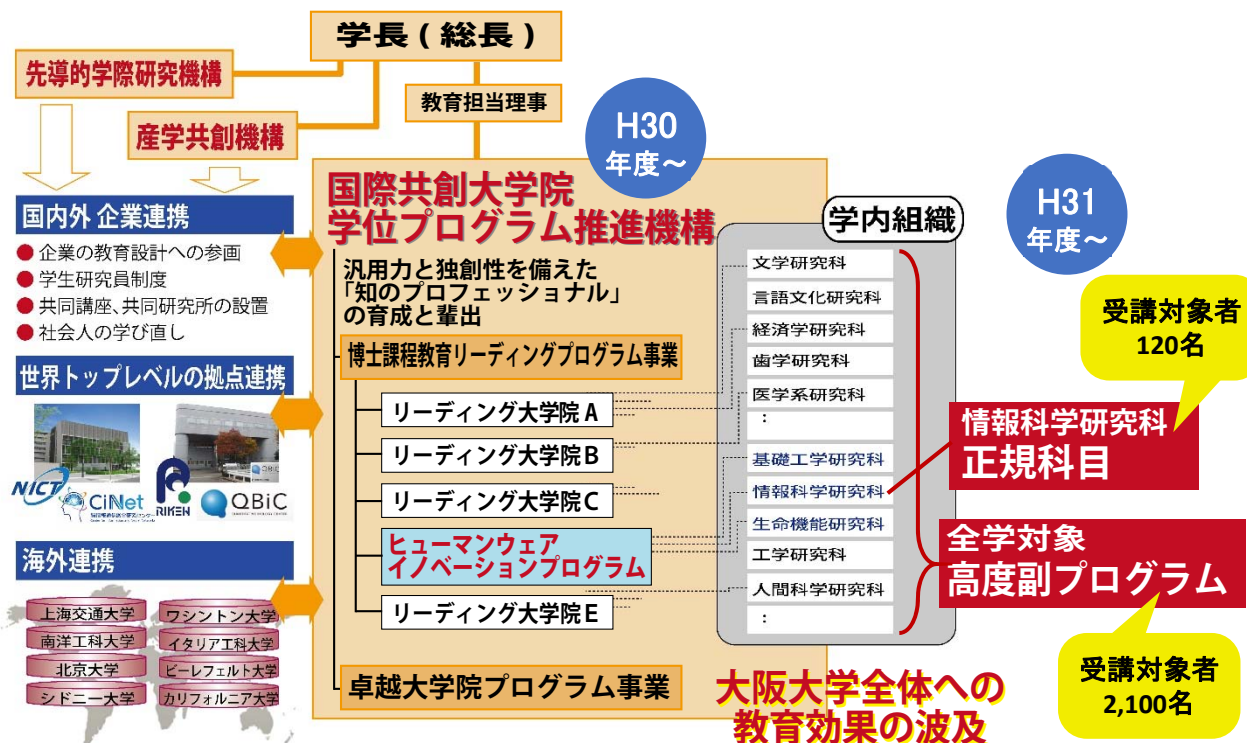
- ★指定国立大学としての大学院教育改革
- ★平成30年度国際共創大学院学位プログラム推進機構を発足
 - 社会変革に貢献する世界屈指のイノベティブな大学
 - 社会のイノベーションを創出において活躍する博士人材の育成

第3期中期目標

コラボレーティブイノベーションを推進するため、学問の真髄を極める能力である高度な専門知識と豊かな教養、高いデザイン力を有し、社会を牽引することができる「知」を備えた人材を育成する。

第3期中期計画

高度な専門知識を身に付けさせるため、新たな科目の企画と提供科目の見直しを通じて、学位プログラムに基づく社会の要請を踏まえた体系的なカリキュラムを全学的に刷新し、新たに平成29年度から順次提供し、平成33年度までに完成させる。



ヒューマンウェアプログラムは先駆的教育改革モデルとして継続



定着 WG（第 4 回）

意見交換内容（メモ）

【日時】2019 年 1 月 31 日（木）15 時～16 時 30 分

【場所】情報科学研究科 C 棟 6 階 C609

【構成員（敬称略）】清水（座長・情）、尾上（情）、村田（情）、増澤（情）、
若宮（情）、原（情）、平岡（生）、深川（生）、細田一（情）

【陪席（敬称略）】鐘ヶ江大学院係長（情）

【欠席】藤原（情）、細田耕（基）

WG 資料の「定着運営実施案」及び「ヒューマンウェアイノベーションの指導運営体制（H31-）」に基づいて座長から詳細な説明があり、種々協議を行い、今後の運営方針を確認した。

（1）基本方針（決定事項）について

これまでの決定事項を振り返った後に次のことを確認した。

- ① プログラムの現実的なよいところを実際の運営体制に生かすこと。
- ② 既にできあがったものをうまく動かしていくこと。

（2）具体実施案（指導運営体制含む）について

特に次のことについて確認した。

- ① プログラム幹事会は特任人事、総長裁量経費の使途を協議する。
- ② 企画運営委員会幹事 6 名のうち、新たに加わる 3 教授については、主に研究科間、外部機関、外部講師との連絡を担当する。
- ③ 専攻 1 名（准教授または助教）はメンターとなり、実務の細部について担当する。
- ④ 企業連携・審査関係教員はプログラムの入学及び修了に係る業務に携わると共に、産学連絡協議会も担当する。
- ⑤ 教務委員会は実働部隊として位置づけ、特任教員はこれまでのノウハウをメンター等に伝える。
- ⑥ 情報科学研究科教務委員会及び大学院係とは今後も密に連携する。
- ⑦ 合宿（熟議セミナー）については、コア以外の情報科学研究科学学生や高度副プログラムの学生も履修することから、これまでの方法を変更する可能性がある。
例：夏季休業期間に学内で集中講義的に行う。
- ⑧ 学生アドバイザリは最終審査について自由参加に変更し、最終審査には携わらないが、履修生とは産学連絡協議会で面談する。

（3）質疑応答（協議終了後）

- ① 今後の運営方針をいつ外部に公表するか。
・3 月 18 日（月）のプログラム報告会（於：銀杏会館）において、学生、企業等の外部の方、関係教員に公表する。

- ② 生命系の卓越大学院プログラムは、医学系や歯学系の大学院は1年遅れての開始となるため、来年度（初年度）は生命機能研究科、薬学研究科の学生の参加が期待されている。

HWIP では生命機能研究科学生に対して、これまでどおり募集を行ったか。

- ・大学院入試合格者に募集要項等を送付している。

- ③ GPI は誰に対して行うのか。

- ・コア学生のみ。

- ④ GPI 実施に係る予算を配慮して欲しい。

- ・検討する。

- ⑤ 31 年度の予算はどれくらいで、いつ頃配分があるか。

- ・給付奨学金が 2,000 万円、それ以外で 7,000 万円を要求している。

配分の時期は少し遅くなるかも知れない。

- ⑥ 授業料免除と給付奨学金はどうなっているか。

- ・免除について、DC 学生のみ保障されている。

給付奨学金の額は、MC2 万円、DC3 万円は既に募集要項で公表している。

- ⑦ 給付奨学金以外に別の奨学金を受給することは可能か。

- ・給付奨学金の実施要項に受給資格として、月学 5 万円以上の給付型奨学金を受給していないことという項目がある。

- ⑧ HW のアイデアで卓越大学院に応募しないか。

- ・他大学で前例があり、採用されなかった。リーディングのノウハウを包含するか、軸を変えて応募するかだと思うが、当面は切り分けて考える。

- ⑨ 履修生のフォローアップが必要と考える。それにはある程度のシステム化が伴うと思う。

- ・現在、web ページはあるが規約はない。検討する。

- ⑩ メンターは固定か、ローテーションか。

- ・変われるような付加にしたい。

情報科学研究科内の委員会委員として位置付けをしたい。

- ⑪ 来年度当初の混乱はないか。

- ・基礎論 I は心配ない。現在の特任教員二人とあと一人で大丈夫。

創出論は 2 学期科目。イノベーション入門とアウトリーチは 6 月から始まる。

- ⑫ 説明会は開くのか。

- ・2 月の企画運営委員会でこの WG 案を諮り、承認されれば 2 月の後半頃までには開きたい。企画運営委員会に新たに加わった 3 幹事とメンターに具体的内容を伝える。それまでにカレンダーを作りたい。（カレンダーの基本は今年と同じ）

- ⑬ 引継ぎ等について（全般的に）

- ・わかるようにマニュアル化する。

- ⑭ 企画運営委員会で承認後、情報科学研究科教授会で報告する。